

ウイルス研究の潮流シリーズ

ウイルス研究所セミナー

共同利用・共同研究拠点セミナー

演題：生殖器官形成の性差決定機構

演者：山田 源

和歌山県立医科大学 先端医学研究所 教授

日時：2012年9月19日（水）16:00～17:30

場所：京都大学ウイルス研究所 1階 セミナー室

我々は、高等動物にとって重要な器官形成過程である性差を呈す形成過程のメカニズムについて解析してきました。

細胞増殖因子シグナルは、これまでの解析で初期生殖器官形成に重要である事が判明しています。

我々はコンディショナルなミュータントマウスを駆使する事によってヘッジホッグやBmp（骨形成因子）系が生殖器・腹部形成、更に膀胱や後肢を含んだ多種の形成に関与する事を明らかにしました。このような”協調した形成機構”の破綻は、人魚体（Sirenomelia, Mermaid Syndrome）等の有名ではあるがその成立基盤が未知の発生異常をおこすと考えています。

また、男性化に重要なアンドロジェンシグナルが機能をしているオス生殖器官形成プロセスを解析しました。内・外生殖器官は性差を示し、これらの性差は一般に内分泌制御によって構築されると考えられてきております。この過程で未分化生殖器官の間葉細胞が重要な役割を果たすことから、これらの細胞における遺伝子発現を解析しました。間葉細胞におけるそれら遺伝子のアンドロジェン応答性が示されつつあります。この事は、従来生殖器官の形態の差（全体としてみた生殖器の”かたち”）として捉えられてきた性差が、細胞レベルに於いて間葉細胞における性差等としても捉えられつつある状況です。

こうした研究領域は、器官形成の解明や生殖器の特性についての生殖学、ミュータントシリーズを駆使する解析や今後細胞レベルでの解析が必要な学際領域です。

本セミナーでは我々のこれまでのわずかな歴史をふまえつつ最近の状況もはなさせて頂きます。

主催：京都大学ウイルス研究所

世話人：遺伝子動態調節研究部門 分子遺伝学分野

藤田 尚志 (TEL: 751-4031)

e-mail : tfujita@virus.kyoto-u.ac.jp